

Title	大阪方言におけるテ形について：形容詞・名詞述語・動詞否定形式のテ形（相当）形式
Author(s)	高木, 千恵
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2000, 2, p. 47-62
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23177
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪方言におけるテ形について

一形容詞・名詞述語・動詞否定形式のテ形（相当）形式一

高木 千恵

【キーワード】クテ系テ形・カッテ系テ形、文の階層構造、カリ活用、テンス

1. はじめに

大阪方言には、形容詞テ形・名詞述語テ形が二形ずつある。一方は標準語と同形の～クテ（イ形容詞）¹⁾、～デ（ナ形容詞・名詞述語）で、もう一方は～カッテ（イ形容詞）、～ヤッテ（ナ形容詞・名詞述語）という形だが、それぞれはバリエーションとして扱われることが多いようである。たしかに、～カッテ・～ヤッテは、～クテ・～デに置き換えることができる。

- (1) a. ここんとこ忙しかッテ、あんまり寝てへん。 【イ形容詞】
b. ここんとこ忙しくテ、夜も寝てへん。
- (2) a. 昔は貧乏ヤッテ、食べる物もなかなか手に入らへんかった。 【ナ形容詞】
b. 昔は貧乏デ、食べる物もなかなか手に入らへんかった。
- (3) a. 前の選挙ん時は、あいつまだ19歳ヤッテ選挙権なかってん。 【名詞述語】
b. 前の選挙ん時は、あいつまだ19歳デ選挙権なかってん。

しかし、～クテや～デがつねに～カッテや～ヤッテに置き換えられるわけではない。

- (4) a. 毎日忙しくテ、あんまり寝られへん。
b. *毎日忙しかッテ、あんまり寝られへん。
- (5) a. 貧乏デ、食べる物もなかなか手に入らへん。
b. *貧乏ヤッテ、食べる物もなかなか手に入らへん。
- (6) a. あいつまだ19歳デ選挙権ないねん。
b. *あいつまだ19歳ヤッテ選挙権ないねん。

また、動詞否定形式には、～ント、～ンデ、～ンクテ、～ンカッテなど、テ形に相当する形式が複数存在する²⁾。標準語では、「なくて」「ないで」「ずに」という複数の形式について、それぞれの用法の異同等が議論されているが、大阪方言に関しての詳細な記述はみられない。

本稿の目的は、～ヤッテ、～カッテのような、「夕に続く形（～ヤッ・～カッ）+テ」とでもいうべきテ形の用法を明らかにすることである。そのためには、動詞否定形式における複数のテ形（相当）形式の用法について言及する必要があると思われるので、併せて記述したい。

以下では、2.で大阪方言におけるテ形（相当）形式にどのようなものがあるかを簡単に説明し、3.で標準語のテ形に関する先行研究を紹介する。4.でそれぞれのテ形が生起する構文的環境について論じたあと、～ヤッテ・～カッテといったテ形の用法について5.で考察する。さい

ごに、まとめと今後の課題を6.で述べる。

なお、分析のためのデータは大阪方言を母方言とする筆者の内省によった³⁾。例文は基本的に方言文とし、テ形およびテ形相当形式の部分のみカタカナで示してある。

2. 大阪方言におけるテ形およびテ形相当の形式：クテ系とカッテ系

本節では大阪方言におけるテ形／テ形相当形式にどのようなものがあるかを概観する。以下、大阪方言のテ形に関する先行研究について2.1.で述べ、形容詞・名詞述語・動詞それぞれのテ形形式について2.2.および2.3.で簡単にまとめる。

2.1. 大阪方言のテ形について

大阪方言の語法に関する記述はいくつかあるが、いずれも～ヤッテ・～カッテについての明示的な指摘はない。郡（1997：81）では会話例の中にンカッテがあり、「なくて」による標準語訳が付されている。

SA：オカヤマデヨー、ソナン コトシカラ …エフワン スルナンカ… [SU：ン] ゼン
ゼン シランカッテヨー（岡山でね、そんなの今年からFIするなんて全然知らなくてね）
（郡 1997：81 下線は筆者による）

また、近畿方言における形容詞の音便について論じたものに楳垣（1944）がある。京都、大阪、和歌山における資料をもとに記述をおこなっているが、その中に「連用形に「ても」が続く場合」として次のような言及がある。

連用形に「ても」が続く場合には、近畿では、ナゴーても オシーでも アツーでも オモーでも カナシーでも となる筈だが、実際には、この形を使ふことは案外少くて、主として、ナガかっても オシかっても アツかっても オモかっても カナシかっても といふ代用表現を使ふ。

（楳垣 1944 下線は筆者による）

これを楳垣氏は、形容詞の連用形に動詞「あり」が融合したいわゆる「カリ活用」の一つであるとしている。形容詞が「ても」に続く場合、標準語ではク活用連用形が用いられるのに対し、近畿方言ではカリ活用連用形が用いられる、ということであろう。このことについては4.1.2.でもう少し詳しく述べることにする。

2.2. 形容詞・名詞述語

大阪方言における形容詞・名詞述語テ形には、標準語と同じ形式のものと、～カッテ・～ヤッテのような「タに続く形（～カッ・～ヤッ）+テ」とでもいうべき形式のものが存在する。

- (7) ここんとこ忙し {クテ／カッテ}、あんまり寝てへん。 (= (1))
- (8) 昔は貧乏 {デ／ヤッテ}、食べる物もなかなか手に入らへんかった。 (= (2))
- (9) 前の選挙ん時は、あいつまだ19歳 {デ／ヤッテ} 選挙権なかってん。 (= (3))

本稿では、標準語と同形である～デ・～クテのような形式をまとめて「クテ系テ形（以下クテ系）」と、～カッテ・～ヤッテのような、標準語にはない、「夕に続く形+テ」という形式を「カッテ系テ形（以下カッテ系）」と呼ぶことにする。カッテ系が構文的にどこに現れうるかについては4.で、カッテ系とクテ系の用法の異同については5.で論じることになる。

2.3. 動詞

前節で、形容詞・名詞述語における二つのテ形のうち、「夕に続く形+テ」をカッテ系とした。動詞肯定形式の場合、テに続く形式（郵便局に行ッテ手紙を出す）と夕に続く形式（昨日郵便局に行ッタ）とが同形であるため、カッテ系は形態としては区別されない。

一方、動詞否定形式の場合、標準語においてはテ形に相当する形式として「なくて」「ないで」「ずに」の三つがあるが、大阪方言ではンクテ・ンデ・ントなどが用いられる。

- (10) a. 霧で何も見えなくて、運転できなかった。
 b. 霧で何も見え {ンクテ/ンデ/*ント}、運転できんかった。
 (11) a. ご飯も食べ {ずに/ないで} 寝た。
 b. ご飯も食べ {*ンクテ/*ンデ/ント} 寝た。

(10) (11) に示したように、ンクテ・ンデは標準語の「なくて」と、ントは標準語の「ずに」「ないで」とほぼ同じように用いられる。しかし、ンクテ・ンデ・ント（とくに後者二形式）については、形式の存在は指摘されているもののそれぞれの細かな用法の記述はなされていない。これらの形式については4.で適宜その異同について述べることにする。

標準語の「なくて」に相当する形式にはカッテ系（ンカッテ）が存在する。上記の(10)のような場合、ンカッテを用いることも可能である。

- (10') 霧で何も見えンカッテ、運転できんかった。（＝見えなくて）

一方、標準語の「ずに」「ないで」にあたるントにはカッテ系はない。

- (11') *昨日はご飯も食べンカッテ寝た。

以上のことを踏まえた上で、4.および5.で詳細な分析を行う。なお必要に応じて、形容詞・名詞述語にない、ンクテ・ンデをクテ系、ンカッテをカッテ系と呼ぶことにする。ントはテ形相当形式ではあるが、カッテ系と対になっていないので、クテ系には含めない。

3. テ形に関する先行研究

動詞のテ形に関する研究は、成田(1983)、言語学研究会・構文論グループ(1989)、仁田(1995)などによってすすめられてきたが、形容詞・名詞述語のテ形に関するものは管見の限りひじょうに少ない。その中で、南(1993)は動詞・形容詞・名詞述語のテ形について階層構造とからめながら簡単にまとめており、有益である。また日高(1995)は、テ形に相当する動詞否定形式(ないで・なくて・ずに)について、それぞれの異同を明らかにしており、大阪方言の動詞否定形式を論じる上で参考になる。本節では、南(1993)の説を3.1.で概観し、日高(1995)

の分析について3.2.でまとめたあと、本稿での枠組みについて3.3.で述べる。

3.1. 文の階層構造と四つの「～テ」

南(1974)では文の階層構造を四つに分類しているが、田窪(1987)はそれを次のようにまとめている。

- A: 状態・程度副詞+補語+述語
- B: 時・場所修飾語+主格+A+みとめ方+時制
- C: 陳述副詞+主題+B+モーダル
- D: 呼掛け+C+終助詞

(田窪 1987)

この、A段階・B段階・C段階における従属句を、南(1993)はA類・B類・C類と呼んでいる。テ・デで終わる従属句には、大きく四つのタイプがあるが、南(前掲)はそれぞれ「～テ₁」「～テ₂」「～テ₃」「～テ₄」とし、「～テ₁」はA類に、「～テ₂」「～テ₃」はB類に、「～テ₄」はC類に属すとしている。以下、四つの「～テ」について簡単にまとめておく。

(12) 南(1993)におけるテ形従属句の分類:

- A類: 「～テ₁(状態副詞的用法)」
- B類: 「～テ₂(継起的・並列的な動作・状態)」「～テ₃(原因・理由)」
- C類: 「～テ₄(並列)」

A類の「～テ₁」は、「主文で表されるおもな動作、状態などと平行して行われる副次的な動作で、おもな動作、状態のようすなどを描くもの。いわば状態副詞的」と説明されている(南1993:79)。

(13) 髪をふりみだしてとびかかる。 (南 1993:79)

この「～テ₁」は動詞テ形が持つ用法であるが、A類には否定辞が現れないとされているので本稿とはかかわらない。

B類に属す「～テ₂」は、継起的または並列的な動作・状態の意味を表すものである。

(14) 船は、エンジンを停止して、錨を投げた。 【継起】

(15) 左手でかばんをかかえて、右手で必死に吊皮にぶらさがっていた。 【並列】

(南 1993:80 【 】は筆者による)

(14)のような継起的な動作・状態は動詞テ形だけが持つ用法であるが、(15)のような並列を表す用法には、形容詞・名詞述語テ形による次のようなものが含まれると考えられる。

(16) 彼は親切で思いやりがある。

(17) 外はまだ薄暗くて雨が降っていた。

あとに述べるC類に属する「～テ₄」も並列用法だが、(16)(17)が提題のハを節の中に入れていないことを考えると、これらはC類とは考えにくい。よって本稿では、(14)のような継起的な動作・状態を表すテ形従属句を「～テ₂」とし、(15)～(17)のような並列的な動

作・状態を表すものを「～テ_{2.2}」として継起と並列とを区別する。4.3.で述べるが、並列用法におけるカッテ系の現れ方にはB類とC類とで明確な差異が存在する。

同じくB類に属す「～テ₃」は、原因・理由を表すものとされており、形容詞・名詞述語のテ形にも存在する用法である。

(18) 昨日は、かぜをひいて会社を休みました。 (南 1993 : 80)

(19) 隣がうるさくて寝られなかった。

最後に「～テ₄」だが、南(1993)には明示的な説明がない。提題の～ハが現れうる並列的な用法を指しているものと思われる。これは形容詞・名詞述語のテ形にも存在する用法である。

(20) たぶんA社は今秋新機種を発表する予定でありまして、他社の多くもおそらくそれに対抗する計画を考えることでしょう。 (南 1993 : 85)

(21) 新婚当時、彼の父親は貧乏で、母親は病気だったそうだ。

本稿で問題となるのはA類の「～テ₁」を除いた「～テ」、すなわちB類の「～テ_{2.1} (継起的な動作・状態)」「～テ_{2.2} (並列的な動作・状態)」「～テ₃ (原因・理由)」と、C類の「～テ₄ (並列)」である。

3.2. 動詞の否定形式「ないで」「なくて」「ずに」

日高(1995)では、中止節における動詞の否定形式を中心に、テ形の用法を担う標準語の三形式(ないで・なくて・ずに)について詳細な記述がなされている。日高氏はテ形の用法を三つに大別し、三形式の用法の異同を論じている。

(I) ①テ形接続補助用言用法

②従属的用法：付帯状況(前件・後件が、時間的同時性を持つもの)

因果関係(前件・後件が、時間的継起性を持つもの)

③並列的用法：対比(前件・後件に、時間的な関連のないもの)

(日高 1995)

「①テ形接続補助用言用法」に関しては南(1993)では言及されていないが、「②従属的用法：付帯状況」は「～テ_{2.1}」、「②従属的用法：因果関係」は「～テ₃」、「③並列的用法」は「～テ_{2.2}」および「～テ₄」にあたる。以下、それぞれについて少し詳しく説明しておく。

3.2.1. ①テ形接続補助用言用法

日高(1995)では、「動詞のテ形に後接する補助用言」を次のように分類している。

(II) A. (～て) いる、ある、しまう、いく、くる

B. (～て) おく、みる、みせる

C1. (～て) やる／あげる、もらう／いただく、くれる／くださる

C2. (～て) ほしい、ほしがる

(日高 1995)

(ⅡA) や (ⅡB) の「(～て) おく」のようなアスペクト的な用法を持つものには「ないで」「ずに」が、(ⅡB) の「(～て) みる、みせる」や (ⅡC) の授受動詞などによるものには「ないで」のみが用いられる。(例文 (22) ～ (27) は日高 1995 より)

【(ⅡA) (ⅡB) : アスペクト的用法】

- (22) 僕は肩で息をしながら動け {ないで/*なくて/ずに} いた。
 (23) 日本に帰っても、決してこの村のことは誰にも言わ {ないで/*なくて/ずに} おこうと決心した。

【(ⅡB) (ⅡC) 授受動詞など】

- (24) 明日から、もう来 {ないで/*なくて/*ずに} くれ。
 (25) もう来 {ないで/*なくて/*ずに} ほしがっている。

また、「動詞以外の用言にも後接可能なテ形接続の慣用的表現」には次の二つがある。

- (Ⅲ) A. 許可を表す表現 : (～て (も)) いい、結構だ、かまわない、大丈夫だ
 B. 禁止を表す表現 : (～ては) いけない、ならない、だめだ

(日高 1995)

日高 (1995) によると、「(ⅢA) 許可を表す表現」には「なくて」「ないで」が、「(ⅢB) 禁止を表す表現」には「なくて」が用いられる。

- (26) まあ、心配 {しないで/しなくて/*せずに} いいよ。 【(ⅢA) 許可】
 (27) 教会に行か {??ないでは/なくては/*ずには} いけないよ。 【(ⅢB) 禁止】

3.2.2. ②従属的用法 (南の B 類 : 「～テ_{2,1}」「～テ₃」)

従属的用法には、付帯状況、因果関係の二種類あるが、日高 (1995) では、前者には「ないで」「ずに」が、後者には「ないで」「なくて」が用いられると述べている。ただし因果関係のうち、後件の原因・理由を表す場合には「ないで」が不自然になり、「なくて」のみが適切となるとしている。(例文 (28) ～ (32) は日高 1995 より)

【付帯状況】

- (28) 返事を {しないで/*しなくて/せずに} 考えこんでいた。
 (29) ふざけ {ないで/*なくて/ずに} きいている。
 (30) 柿は枝から落ち {ないで/*なくて/ずに} 赤く熟した。

【因果関係】

- (31) 今夜は君の演説が聞け {ないで/なくて/*ずに} 残念だった。 【評価】
 (32) のみたり {?ないで/なくて/*ずに}、街へ出た。 【理由・原因】

3.2.3. ③並列的用法 (南の B 類 : 「～テ_{2,2}」、C 類 : 「～テ₄」)

並列的用法では、述部の否定－肯定が対比されている場合は三形式とも可能であるが、同じ述部否定に対して題目部分が対比される場合には「ずに」が用いられない (例文 (33) (34))

は日高 1995 より)。

【述部の否定－肯定の対比】

(33) この子は親に似 {ないで／なくて／ずに}、おじいさんに似ている。

【述部否定に対する題目部分の対比】

(34) 春子は英語ができ {ないで／なくて／*ずに}、夏子はドイツ語が出来なかった。

(33) のような場合の従属節は、提題のハを含んでいないので南 (1993) の B 類にあたる。一方 (34) は、提題のハが含まれている従属節なので C 類にあたる。

本稿では、3.2.で述べてきた日高 (1995) を参考に、3.3.にあげる枠組みを用いて、大阪方言における複数のテ形について考察していく。

3.3. 本稿で用いる枠組み

ここまでにあげた先行研究の枠組みをふまえたうえで、本稿では次の分析を用いて議論をすすめる。

[1] テ形接続補助用言用法 (⇒4.1.)

[1-1] 動詞テ形＋補助用言 (動詞否定形式のみ) (⇒4.1.1.)

[1-1-1] (～て) いる、ある、しまう、いく、くる

[1-1-2] (～て) おく、みる、みせる

[1-1-3] (～て) やる／あげる、もらう／いただく、くれる／くださる

[1-1-4] (～て) ほしい／ほしがる

[1-2] 用言テ形＋補助用言 (⇒4.1.2.)

[1-2-1] 許可：(～て (も)) いい、結構だ、かまわない、大丈夫だ

[1-2-2] 禁止：(～ては) いけない、ならない、だめだ

[2] 従属的用法 (⇒4.2.)

[2-1] 付帯状況 (B 類「～テ₂₋₁ (継起的な動作・状態)」動詞否定形式のみ) (⇒4.2.1.)

[2-2] 因果関係 (B 類「～テ₃ (原因・理由)」) (⇒4.2.2.)

[3] 並列的用法 (⇒4.3.)

[3-1] B 類「～テ₂₋₂ (並列的な動作・状態)」

[3-2] C 類「～テ₄ (並列)」

「[1-1] 動詞テ形＋補助用言」と、「[2-1] 付帯状況」とは動詞否定形式にのみかかわってくる問題、それ以外は形容詞・名詞述語にもかかわる問題である。以下 4.では、[1] ～ [3] におけるカッテ系使用の可／不可について順に考察していく。

4. カッテ系の生起する環境

本節では、3.3.にあげた枠組みにしたがって、カッテ系の生起しうる環境について論じていく。まず、[1] テ形接続補助用言用法について 4.1.で議論する。[1-1] 動詞テ形＋補助用言に

については4.1.1.で、[1-2] 用言テ形+補助用言については4.1.2.で分析をおこなう。次に[2] 従属的用法について4.2.で論じる。南(1993)のB類「～テ_{2.1}」にあたる[2-1] 付帯状況を4.2.1.、「～テ₃」にあたる[2-2] 因果関係を4.2.2.で考察し、B類「～テ_{2.2} (並列的な動作・状態)」およびC類「～テ₄」にあたる[3] 並列的用法は4.3.で議論する。また本節では、形式の指摘がありながら詳細な記述がなされていない動詞否定形のテ形についても、それぞれの用法について随時触れることにする。

4.1. テ形接続補助用言用法

4.1.1. 動詞テ形+補助用言

[1-1] 動詞テ形+補助用言

[1-1-1] (～て) いる、ある、しまう、いく、くる

[1-1-2] (～て) おく、みる、みせる

[1-1-3] (～て) やる/あげる、もらう/いただく、くれる/くださる

[1-1-4] (～て) ほしい/ほしがる

これは、動詞のテ形に後接する補助用言として3.2.1.であげた4分類である。

まず[1-1-1]については、否定形式の共起そのものに疑問がある。日高(1995)にあがっている例は書きことば的であり、方言でいう場合には、動詞否定テ形形式+補助用言ではなくふつうの否定形式を用いた方が自然なように思われる。(例文(35)～(40)は日高1995より。否定形式の箇所のみ方言形にした)

(35) a. 僕は肩で息をしながら動け {?ント/??ンデ/*ンクテ} いた。

b. 僕は肩で息をしながら動けンカッタ (ノ動カレヘンカッタ)。

(36) a. 平生より多少機嫌のよかった奥さんも、とうとう私の恐れを抱いている点までは話を進め {?ント/??ンデ/*ンクテ} しまった。

b. 平生より多少機嫌のよかった奥さんも、とうとう私の恐れを抱いている点までは話を進めンカッタ。

(37) a. 三郎は袁と彼の親については出来るだけ話題にふれ {?ント/??ンデ/*ンクテ} 来たのだった。

b. 三郎は袁と彼の親については出来るだけ話題にふれンカッタのだ。

テ形接続補助用言の形式を強いて用いるならば、やや不自然ながらントが用いられるかもしれないが、ンデ・ンクテは不可能である。

また、[1-1-2]のうち、(～て) おくの場合には(～セ) ントク・(～セ) ンドクという複合的な形式が用いられ、「ントおく」「ンデおく」はかなり不自然である。「ンクテおく」は用いられない⁶⁾。

(38) a. 日本に帰っても、決してこの村のことは誰にも言わ { ントコ (ウ) /ンドコ (ウ) } と決心した。

b. 日本に帰っても、決してこの村のことは誰にも言わ{??ント/??ンデ/*ンクテ}おこうと決心した。

[1-1-3] [1-1-4] には (～セ) ントク・(～セ) ンドクのテ形 ((～セ) ントイテ・(～セ) ンドイテ) が用いられ、ント・ンデ・ンクテは不可能である⁷⁾。

(39) 明日から、もう来 {ントイテ/ンドイテ/*ント/*ンデ/*ンクテ} くれ。

(40) もう来 {ントイテ/ンドイテ/*ント/*ンデ/*ンクテ} ほしがっている。

このように、動詞テ形+補助用言の場合にはおもにントイテが用いられ、ンデ・ンクテが用いられることはない。2.3.で少し述べたが、ンカッテはンデ・ンクテが可能な場合に用いられる形式なので、[1-1] においては用いられない。

4.1.2. 用言テ形+補助用言

[1-2] 用言テ形+補助用言

[1-2-1] 許可:(～ても) いい、結構だ、かまわない、大丈夫だ

[1-2-2] 禁止:(～ては) いけない、ならない、だめだ

2.1.で述べたように、「～ても」に続く場合、近畿方言における形容詞はカリ活用の「かっても」という形態をとる(楳垣 1944)。したがって [1-2-1] の「許可」においては、形容詞述語でのカッテ系使用が可能である。

(41) あんまりお腹空いてないから、晩ご飯少なカッテモいいよ。

また名詞述語文でも、許可の場合にはヤッテモを用いることができる。

(42) 簡単な仕事やし、初心者ヤッテモいいよ。

ただし、形容詞・名詞述語ともにモによるとりたてが必須条件で、「～ていい」の場合にはカッテ・ヤッテは用いられない。

(43) a. あんまりお腹空いてないから、晩ご飯少なカッテモいいよ。 (= (41))

b. あんまりお腹空いてないから、晩ご飯少な*カッテいいよ。

(44) a. 簡単な仕事やし、初心者ヤッテモいいよ。 (= (42))

b. 簡単な仕事やし、初心者*ヤッテいいよ。

許可を表す表現の場合、クテ系(デ・クテ)を使うこともできる。クテ系は、モによるとりたての有無にかかわらず使用可能である。

(43') a. あまりお腹空いてないから、晩ご飯少なクテモいいよ。

b. あまりお腹空いてないから、晩ご飯少なクテいいよ。

(44') a. 簡単な仕事だから、初心者デモいいよ。

b. 簡単な仕事だから、初心者デいいよ。

楳垣(1944)では、「～ても」に続く場合の形容詞に音便形が見られないのはもっぱらカリ活用を用いるためであるとしているが、筆者の内省ではク活用であるクテ系の使用も不自然ではない。現在の大阪方言ではクテ系とカッテ系の両方が用いられるように思われる。

否定形式でも同様に、許可の場合にはンカッテモを用いることができる。モによるとりたてが必須で、「～ていい」の場合にはンカッテが用いられないという点でも、形容詞・名詞述語の場合と共通している⁸⁾。

- (45) a. まあ、心配センカッテモええで。
b. *まあ、心配センカッテええで。

形容詞・名詞述語と同様、同じ文脈でンデを使うこともできる。ンデは、モによるとりたての有無にかかわらず使用可能である。しかシクテは、比較的新しい形式であるためか、このような慣用表現においては許容されにくい。

- (45') a. まあ、心配 {センデモ/??センクテモ (/??シクテモ)} ええで。
b. まあ、心配 {センデ/??センクテ (/??シクテ)} ええで。

また、[1-2-2]の禁止の場合、名詞述語では～ヤッタラアカン、形容詞では～カッタラアカンという表現を用いるのがふつうである。デハ・クテハという言い方もすることはあるが頻度は高くなく、とくにクテハの容認度はやや下がる(標準語的な表現に感じられる)。ヤッテハ・カッテハという言い方はない。

- (46) a. ちゃんとしたパーティやねんから、ラフな恰好ヤッタラアカンで。
b. ちゃんとしたパーティやねんから、ラフな恰好 {デハ/*ヤッテハ} あかんで。
(47) a. メインは披露宴やから、余興があんまり多カッタラあかんで。
b. メインは披露宴やから、余興があんまり多 {クテハ/*カッテハ} あかんで。

動詞否定形式には(～セ)ナアカン、あるいは(～セ)ントアカン(標準語の「～しないといけない」にあたる表現)という専用の表現形式があり、ンデハ・シクテハ・ンカッテハなどは用いられない。

- (48) a. 教会に行か {ナ/ント} アカンよ。
b. 教会に行か {*ンデハ/*シクテハ/*ンカッテハ} いけないよ。

以上をまとめると、用言テ形+補助用言のうち、「～てもいい」ではクテ系とカッテ系が併存し、「～ていい」ではクテ系のみが使用可能であり、「～てはいけない」では～{ヤッ/カッ}タラアカン、(～セ){ナ/ント}アカンという専用形式が用いられる、ということになる。

繰り返すが、用言テ形+補助用言における形容詞述語におけるカッテ系の使用は、榎垣(1944)にも指摘があるように、大阪方言においてはもともと、この環境においてはク活用ではなくカリ活用が用いられていたものと思われる。ただし(43')のように、現在の大阪方言においてはクテ系も可能である。また、名詞述語のカッテ系(ヤッテモ)は、形容詞述語におけるカッテ系への類推、あるいは標準語における「名詞+であつても」という言い方への類推の結果生まれたものと考えることができよう。ただし、動詞の否定辞に関してはンカッタという形容詞的な形式自体が新しいものであるのも、もともとカリ活用がここにも用いられていたわけではない。タ形において形容詞的な形式(ンカッタ)を取り入れた際に、テ形においてもカッテ系を取りこんだと考えらるべきであろう。

4.2. 従属的用法

4.2.1. 付帯状況

先述したが、付帯状況は動詞否定形式だけにかかわるものである。この場合には、もっぱらントが用いられる。(例文(49)～(53)は日高1995より。否定形式の箇所のみ方言形にした)

- (49) 立ったまま椅子に座ろうとも {セント/*センデ/*センクテ}、三浦はいきなり用件を切り出した。
- (50) 返事を {セント/*センデ/*センクテ} 考えこんでいた。
- (51) ふざけ {ント/*ンデ/*ンクテ} きいている。
- (52) 私達も、あなたに興奮 {セント/*センデ/*センクテ} ゆっくり相談に乗ってほしいと思います。
- (53) 柿は枝から落ち {ント/*ンデ/*ンクテ} 赤く熟した。

2.3.でも少し触れたが、ンカッテはンデ・ンクテが用いられる場合にのみ可能であり、ントだけが可能な付帯状況においては用いられない。

4.2.2. 因果関係

因果関係では、形容詞述語であっても名詞述語であってもカッテ系を用いることができる。

- (54) 妹は当時まだ中学生 {デ/ヤッテ}、洋楽にはあんまり興味なかった。
- (55) 昨日泊まった部屋、むっちゃ明る {クテ/カッテ} 寝られへんかった。

日高(1995)によると、動詞否定形式においては、〈後件の感情・評価の内容〉を表す場合と〈後件の原因・理由〉を表す場合とで形式が異なるという。しかし大阪方言ではどちらの場合でも差異はなく、ンクテ・ンデが使用される。ントは用いられない。ンデ・ンクテが可能であることからわかるように、ンカッテも可能になる。

- (56) 今夜は君の演説が聞け {*ント/ンデ/ンクテ/ンカッテ} 残念やった。

4.3. 並列的用法

並列的用法でも、次のようにカッテ系を用いることができる。

- (57) 新婚当時、父親は貧乏 {デ/ヤッテ}、母親は病気やった。
- (58) 子供の頃は、弟は無口 {デ/ヤッテ}、妹はおしゃべりだった。
- (59) 姉ちゃんは優し {クテ/カッテ}、兄ちゃんは厳しかった。

しかし並列的用法には、カッテ系が用いられない場合もある。

- (60) 父親は貧乏 {デ/*ヤッテ} 病気やった。
- (61) 弟は無口 {デ/*ヤッテ}、本を読むのが好きだった。
- (62) 姉ちゃんは優し {クテ/*カッテ}、きれいだった。

(57)～(59)と(60)～(62)との違いは、前者の「～テ」が提題のハを含んでいるのに

対し、後者のそれは提題のハを含んでいない点である。すなわち、同じ並列用法であっても B 類に属する「〜テ_{2.2} (並列的な動作・状態)」ではカッテ系は用いられず、C 類に属する「〜テ₄ (並列)」では用いられるということである。(62) を参照されたい。

- (63) a. 父親は貧乏 {デ/ヤッテ}、母親は病気だった。
 → [父親は [貧乏ヤッタ]] [母親は [病気ヤッタ]] 【C 類「〜テ₄」】
 b. 父親は貧乏 {デ/*ヤッテ} 病気やった。
 →父親は [[貧乏ヤッタ] [病気ヤッタ]] 【B 類「〜テ_{2.2}」】

したがって次の (64) のような場合には、(65a) は適格であるが (65b) は非文となる。

- (64) 父親は [貧乏で病気で酒飲みで]、母親は働き者だった。
 (65) a. 父親は貧乏で病気で酒飲みヤッテ、母親は働き者やった。
 b. 父親は貧乏*ヤッテ病気*ヤッテ酒飲みで、母親は働き者やった。

このように、同じ並列用法であっても、カッテ系が用いられるのは C 類の「〜テ₄」のみであって、B 類に属する「〜テ_{2.2}」には用いられない。提題のハを含まない場合の〜テ (B 類) におけるカッテ系はすべて因果関係と解釈され、並列とは解釈されないのである⁹⁾。

次に動詞否定形式だが、標準語では、述部の否定—肯定が対比される B 類の「〜テ_{2.2} (並列的な動作・状態)」と、同じ述部否定に対して題目部分が対比される C 類の「〜テ₄ (並列)」とで用いられる形式に違いがある (⇒3.2.3.)。当該方言でも、B 類「〜テ_{2.2} (並列的な動作・状態)」の場合にはントのみが、C 類「〜テ₄ (並列)」の場合にはンクテ・ンデが用いられる。ンデ・ンクテが可能であることから、C 類の場合にはンカッテも使用可能になる。

- (66) この子は親に似 {ント/*ンデ/*ンクテ}、おじいさんに似てる。
 【B 類「〜テ_{2.2} (並列的な動作・状態)」: 述部の否定—肯定の対比】
 (67) 外国語の試験で、春子は英語ができ {*ント/ンクテ/ンデ/ンカッテ}、夏子はドイツ語が出来なかった。

 【C 類「〜テ₄ (並列)」: 同じ述部否定に対する題目部分の対比】

4.4. カッテ系の生起する環境

本節で述べた、クテ系・カッテ系の生起環境をまとめると次の通りである。

- [1] テ形接続補助用言用法
 [1-1] 動詞テ形+補助用言
 [1-1-1] (〜て) いる等…不可 (「テ形+補助用言」でない形式を用いる)
 [1-1-2] (〜て) おく…不可 (ントクという複合的な形式を用いる)
 [1-1-3] (〜て) やる/あげる、もらう/いただく、くれる/くださる…不可 (ントイテが用いられる)
 [1-1-4] (〜て) ほしい/ほしがる…不可 (ントイテが用いられる)
 [1-2] 用言テ形+補助用言

- [1-2-1] 許可：(～ても) いい…クテ系・カッテ系
(～て) いい…クテ系

- [1-2-2] 禁止：{～ヤッ／～カッ} タラアカン、{～セント／～セナ} アカン

[2] 従属的用法

- [2-1] 付帯状況 (B 類「～テ_{2,1} (継起的な動作・状態)」) …クテ系 (ントのみ)

- [2-2] 因果関係 (B 類「～テ₃ (原因・理由)」) …クテ系・カッテ系

[3] 並列的用法

- [3-1] B 類「～テ_{2,2} (並列的な動作・状態)」…クテ系

- [3-2] C 類「～テ₄ (並列)」…クテ系・カッテ系

形容詞・名詞述語・動詞否定形式においてカッテ系が現れうる構文的環境は、次のようにまとめられる。

- [1-2-1] 用言テ形+補助用言：許可 (モによるとりたてあり)

- [2-2] 従属的用法：因果関係 (B 類「～テ₃」)

- [3-2] 並列的用法：C 類「～テ₄」

[1-2] 用言テ形+補助用言において用いられるカッテ系は、カリ活用の残存、あるいは標準語「～であっても」からの類推と考えられる (動詞否定形式の場合にはカリ活用の「採用」)。次節では、[2-2] [3-2] で用いられるカッテ系の用法について、クテ系との差異を明らかにすることにする。

5. カッテ系の用法：クテ系との差異

4.では、カッテ系が構文的にどのような環境で用いられるかに焦点をあて、クテ系とカッテ系の用法の違いについてはあえて言及しなかった。本節では、[2-2] 従属的用法：因果関係 (B 類「～テ₃」) および [3-2] 並列的用法：C 類「～テ₄」におけるカッテ系の用法について考察する。

これまで、カッテ系はクテ系のバリエーションであると認識され、とくに取り上げて論じられることはなかったようであるが、クテ系がつねにカッテ系に置き換えられるわけではない。

- (68) 毎日忙し {クテ/*カッテ}、あんまり寝られへん。 (= (4))

- (69) 貧乏 {デ/*ヤッテ}、食べる物もなかなか手に入らへん。 (= (5))

- (70) あいつはまだ 19 歳 {デ/*ヤッテ}、選挙権がない。 (= (6))

下にあげたのは、4.であげた B 類、C 類における「～テ」の例だが、(71a) (72a) (73a) (74a) の一部を変えた (72b) (73b) (74b) (75b) (76b) では、カッテ系を用いることができない。

- (71) a. 妹は当時まだ中学生 {デ/ヤッテ}、洋楽にはあんまり興味なかった。 (= (54))

- b. 妹はまだ中学生 {デ/*ヤッテ}、洋楽にはあんまり興味ない。

- (72) a. 昨日泊まった部屋、むっちゃ明る {クテ/カッテ} 寝られへんかった。 (= (55))

- b. 南向きのあの部屋やったら、明る {クテ/*カッテ} 寝られへん。

(73) a. 新婚当時、父親は貧乏 {デ/ヤッテ}、母親は病氣やった。 (= (57))

b. 父親は貧乏 {デ/*ヤッテ}、母親は病氣や。

(74) a. 姉ちゃんは優し {クテ/カッテ}、兄ちゃんは厳しかった。 (= (58))

b. うちの家は、姉ちゃんは優し {クテ/*カッテ}、兄ちゃんは厳しい。

(72) ~ (75) を見ると、テ形で語られることがらが過去（発話時以前）である場合にカッテ・ヤッテが用いられている。しかし、カッテ・ヤッテは、次の (76) (77) のような、テ形で語られることがらが過去でない（現実には起こっていないことがらである）場合に用いられることもある。

(75) 「もし明日すっごい雨 {デ/ヤッテ} 警報出とったら学校休み?」「たぶんな」

(76) 時間が足り {ンデ/ンクテ/ンカッテ} できんかった、ということのないように、余裕をもってやるようにしてください。

つまりカッテ系は、いわゆる過去テンスのみを表す形式である。クテ系がすべての事象について言及しうるのに対し、カッテ系は発話時以前にすでに成立している事象、あるいは言及点 (reference point) 以前に成り立つ事象についてしか言及しえない。したがって、(77) (78) のように、テ形を含む節を従属節として持つ主節が、発話時以前に成立している事象であったり、あるいはテ形を含む節が言及点以前に成立する事象であったりしても、テ形で語られる事象がそうでなければ（すなわち、一般的・普遍的な事象である場合には）、カッテ系を用いることはできないのである。

(77) 若い頃は、子供って騒々し {クテ/*カッテ} 苦手やった。

(78) 隣近所が、子供は騒々し {クテ/*カッテ} 苦手やって、ペットとかもあんまり興味ない人らやったら、日常生活でいろいろ気い使うこと多いと思う。

これは、カッテ系が、「タに続く形+テ」とでも言うような形から成っていることと多に関係がある。すなわちカッテ系は、従属節内で、~ヤッタ、~カッタ、~ンカッタなどのタ形と同じ機能（テンスをマークする）を担っている形式ということができるのである。

6. おわりに

本稿では大阪方言におけるカッテ系について、生起しうる構文的環境とその機能について整理した。カッテ系は、(1) 用言テ形+補助用言、(2) 従属的用法：因果関係 (B類「~テ」) (3) 並列的用法：C類「~テ」において生起し、発話時以前あるいは言及点以前における事象を表す形式であることが明らかになった。また分析の中で、動詞否定形式に関しては、ンクテ・ンデ・ントの三形式の用法についても述べた。

今回は、世代差や地域差・男女差といった言語外的な条件を捨象している。大阪方言におけるカッテ系は、全世代を通して用いられている形式であるかどうかは不明である。とくに、クテ系でも代用しうることから、クテ系の専用へと動いている可能性もある。若年層ではイ形容詞・動詞否定形式として~クッテという形式も聞かれる。~カッテと~クテの中間的な形式で

あるかもしれない。また一方で、カッテ系は広く西日本の諸方言で用いられている形式のようにも思われる。カッテ系使用の地域差・世代差に関しては、ともに今後の課題としたい。

【注】

- 1) 形容詞の音便形については、本稿では〜クテの変異形と考え、とりたてて言及することはしない。
- 2) 大阪方言の動詞否定形式には、ン否定形のほかにヘン否定形がある(郡 1997)が、本稿ではンで代表させる。それは、語中ではヘンよりもンが選ばれる傾向にある(高木 1998)ことと、テ形に相当する形式にはントのように通常ンしか用いられないものがあることによる。
- 3) 筆者は1974年兵庫県神戸市生まれ、3歳から現在まで大阪府豊能郡在住。なお、判断がゆれた場合などは他のネイティブにも確認をとるようにした。
- 4) ンクテは比較的新しい形式で、老年層・中年層での使用は少ないと思われる。逆に若年層におけるンデの使用は減少傾向にあるが、〜センデモエエ(〜しなくてもよい)のような固定形式では〜ンデ用いられる。本稿では世代による差異は問題にせずンクテ・ンデの両方を記述の対象とする。
- 5) 日高(1995)では(ⅡB)の「(〜て)みる、みせる」には「なくて」が用いられるとして次の例を挙げている。しかし筆者の判断では、否定形式との共起そのものが起こりにくいように思われ、適格性判断には疑問が残る。

(1) このことは誰にも言わ{ないで/*なくて/?ずに}みせる。

(日高 1995 (9))

- 6) (〜セ)ンドクの使用は減っているように思われる。
- 7) 標準語では、このような場合に「〜しないでおいてくれ」などと言うと、「準備」「一時的処置」といったもくろみ的な意味合いが付されてしまう。例えば「来ないでおいてくれ」は、(2)では不自然だが、(3)ならば自然な文として許容されるはずである。

(2) ?明日から、もう来ないでおいてくれ。

(3) 僕がなんとか隙を見つけて合図を送るから、それまでは来ないでおいてくれ。

高田(1999)によると、大阪方言においては、テオク形が〈持続〉を表すアスペクト用法を発達させていることによってもくろみ性を弱めているという。そのため、テオク形が意図的な動作だけでなく意志的なものにまで用法が広がり、(2')のようにテオク形が容認されるものと思われる。

(2') 明日から、もう来ントイテくれ。

- 8) 「動詞否定形+ていい」の場合に、(4)のような(〜セ)ンカテという形式を用いることがある。

(4) まあ、心配センカテええよ。

ただし本稿ではこれについては考察していない。〜カテという形式が、標準語の「〜だって」にあたる表現でも用いられており、(〜セ)ンカテが(〜セ)ンカッテの変異形であるとは言いきれないためである((5))。〜カテについては検討の必要がある。

(5) 私カテ、あんなこと言われて黙ってられません。

- 9) ちなみに連体修飾節でも、「〜テ_{2.2}(並列的な動作・状態)」ではカッテ系が用いられず「〜テ₃

(従属的用法：因果関係)であれば用いられるという同様の現象が見られる。

- (6) 優し {クテ/*カッテ} 美人やった姉 【「～テ_{2,2} (並列的な動作・状態)】】
(7) 責任感強 {クテ/カッテ} みんなから信頼されてた妹 【「～テ₃ (従属的用法：因果関係)】】

【参考文献】

- 榎垣實 (1944) 「近畿方言の形容詞」『方言研究』10号 (井上史雄・篠崎晃一・小林隆・大西拓一郎編
1997『日本列島方言叢書 13 近畿方言考① (近畿一般)』ゆまに書房 再録)
言語学研究会・構文論グループ (1989) 「なかどめ-動詞の第二なかどめの場合」『ことばの科学 2』
むぎ書房
郡史郎 (1997) 『大阪府のことば』平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編
日本のことばシリーズ 27 明治書院
高木千恵 (1998) 「若年層の関西方言における否定辞の使用実態-カジュアルな場面での談話を資料と
して-」『日本方言研究会第 67 回研究発表会原稿集』
高田祥司 (1999) 「大阪方言におけるテオク形の用法-東京方言との対照を中心に-」『現代日本語研
究』第 6 号 大阪大学日本語学講座
田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」『日本語学』6 卷 5 号 明治書院
成田徹男 (1983) 「動詞の「て」形の副詞的用法」『副用語の研究』明治書院
仁田義雄 (1995) 「シテ形接続をめぐって」仁田義雄編『複文の研究 (上)』くろしお出版
日高水穂 (1995) 「ナイデとナクテとズニーテ形の用法を持つ動詞の否定形式-」宮島達夫・仁田義雄
編『日本語類義表現の文法 (下) 複文・連文編』くろしお出版
南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
—— (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店

たかぎ ちえ (大阪大学大学院生)

chie8608@let.osaka-u.ac.jp